

学科名	経営ビジネス学科						
科目名	比較文化論						
科目区分	専門科目	単位数	2	開講時期	水4		
必修・選択の別	選択						
担当者	岡 宏						
授業の到達目標 (シラバスから)	<ul style="list-style-type: none"> ・文化とは何かについて説明できる。 ・日欧における「身体観・死生観」について、その相違を説明できる。 ・差異性をコンフリクトではなく、協調性への手段として説明できる。 						
内容	9月18日 9月25日 10月2日 10月9日 10月16日 10月23日 10月30日 11月6日 11月13日 11月20日 12月27日 12月4日 12月11日 12月18日 1月15日 1月22日	第1回: 導入講義(講義の進め方と概要、成績評価について)、「学としての比較文化論」 第2回: 文化の定義(「文化とは」) 第3回: 文化の比較(「理解」と「誤解」) 第4回: 言語と文化(「聞くこと」の力) 第5回: 「自己」と「他者」 第6回: 『聖書』「天地創造説」 第7回: 『古事記』「国産み思想」 第8回: 和辻哲郎『風土』にみる人間観 第9回: 柳田国男『遠野物語』の民族思想 第10回: G・W・F・ヘーゲル『法・権利の哲学綱要』家族論① 第11回: G・W・F・ヘーゲル『精神現象学』家族論② 第12回: 移植医療で考える「身体観」の差異性 第13回: ビリーブメント・ケアとグリーンワークにみる比較考察(イギリス・アメリカと日本) 第14回: 中心と周縁(「はれ」と「け」の文化観) 第15回: 比較文化論の課題と展望 定期試験					
成績評価基準	定期試験(50%)、臨時試験(30%)、課題(20%)の成績を総計して評価点とする。						
授業到達目標の達成度	「文化とは何かについて説明できる。」受講学生の殆どが概ね説明できていた。 「日欧における「身体観・死生観」について、その相違を説明できる。」ほぼ理解できていたといえる。 「差異性をコンフリクトではなく、協調性への手段として説明できる。」受験学生の理解は出来ていたといえる。						
反省点	文化定義の多様性を紹介しつつ、人間理解の視点を基軸に文化形成過程の考察を行った。概ね思惑的に文化の概念を理解する糸口に達することは出来たと思う。残念なことは、時間の関係上、文化の多様性について、さらに踏み込んだ思索まで進めなかった。より広範囲な独自の思索へと展開できるように今後の課題としたい。						
来年度の計画	授業計画は、概ね今年度と同様に進める予定だが、反省点での記述を改善するための個別添削を検討したい。						
授業評価アンケートに対するコメント	総合的に見て、特に問題はないと思われる。今後は予習・復習励行のためのアドバイス、さらには出席率向上に向けた健康的かつ建設的な取り組みを考えたい。						
履修登録者数	79名	定期試験 受験者数	71名	合格者数	71名	合格率	100%